

建築研究所 ニュース



平成21年 5月28日

建築研究所第二期中期計画の改定について

(専門紙記者懇談会資料)

平成21年5月28日に国土交通省で開催しました、「建築研究所 第2回専門紙記者懇談会」の配布資料をご案内します。

(内容の問合せ先)

独立行政法人 建築研究所

所属 総務部総務課

氏名 大高茂則

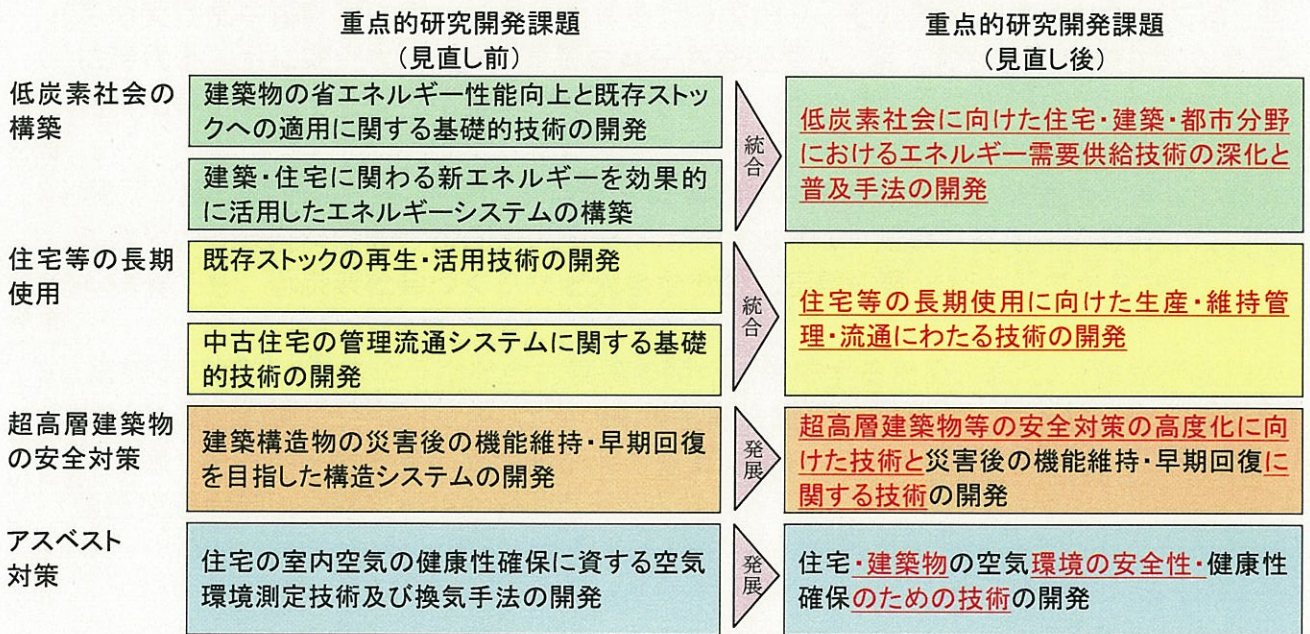
電話 029-879-0605 (直通)

E-mail ootaka@kenken.go.jp

建築研究所第二期中期計画の改定について

1. 概要

- (1) 建築研究所では、独立行政法人に移行した平成 13 年度以降、国土交通大臣から認可を受けた中期計画に従って業務運営を行っており、その業務運営にあたっては、常に時代とともに変化する社会・国民のニーズを把握し、現下の社会的要請に即した研究開発等を実施するように努めております。
- (2) 現行の第二期中期計画(平成 18 年度～22 年度)の策定から 3 年が経過しましたが、この間の社会経済情勢の変化のスピードは非常に早く、建築・住宅・都市計画の分野に関しても、低炭素社会づくりなど大きな社会的要請の変化が生じております。
- (3) 建築研究所は、このような社会的要請の変化に対応するため、また、「独立行政法人整理合理化計画」(平成 19 年 12 月 24 日閣議決定)を踏まえ、重点的研究開発課題の見直しを内容とする第二期中期計画の変更を行い、平成 21 年 3 月 31 日付けで、国土交通大臣より認可を頂きました。



参考図 見直し前後の重点的研究開発課題名(見直した重点的研究開発課題のみ掲載)

問い合わせ先
独立行政法人建築研究所
企画部長 長崎 卓
Tel 029-879-0630
nagasaki@kenken.go.jp

2. 見直しのポイントと背景

変更前の第二期中期計画の認可（平成 18 年 4 月 1 日）以降、とりわけ社会的要請が高まっている、「低炭素社会の構築」「住宅等の長期使用」「超高層建築物の安全対策」「アスベスト対策」の4つを見直しの柱とし、これらと関係の深い既存の重点的研究開発課題の統合を図りつつ、重点的研究開発課題の大幅な見直しを行いました。

（1）低炭素社会の構築

- 1) 平成 20 年 7 月の洞爺湖サミットを契機にして、「低炭素社会づくり行動計画」（平成 20 年 7 月 29 日閣議決定）が策定され、我が国の長期的な数値目標として「2050 年までに現状から 60～80%のCO₂排出量削減」が掲げられました。
- 2) 建築・住宅分野においても低炭素社会の構築に向けた研究開発の社会的要請が大きくなっていることから、今回の見直しにより、従前からの「省エネルギー」の研究開発と「新エネルギー」の研究開発を統合し、「低炭素社会」というテーマの下で、一体的に研究開発を行うことにしました。

（2）住宅等の長期使用

- 1) 住宅の長期使用に対する社会的要請は高く、政府においても「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」（平成 20 年 12 月 5 日公布）をはじめ各般の施策が進められています。
- 2) 今回の見直しにより、従前からの「既存ストックの再生・活用技術」の研究と「中古住宅の管理流通システム」の研究を統合し、新たに材料・部材の耐久性に関する研究開発も加えて、「住宅等の長期使用に向けた生産・維持管理・流通にわたる技術の開発」というテーマの下で一体的に研究開発を行うことにしました。

（3）超高層建築物の安全対策

- 1) 近年、タワー型マンション等超高層建築物の建設が進み、また、そのような大規模な建築物が複数立地する街区が増加してきている中、新潟県中越地震（平成 16 年 10 月 23 日）では長周期地震動が観測され、長周期地震動への対応など超高層建築物の安全対策の充実に対する社会的要請が大きくなってきています。
- 2) 今回の見直しにより、従来からの「建築構造物」を対象とした研究開発に、「超高層建築物」も加えて、「超高層建築物等の安全対策の高度化に向けた技術と災害後の機能維持・早期回復に関する技術の開発」を行うことにしました。

（4）アスベスト対策

- 1) アスベスト健康被害問題の再認識により、平成 17 年度後半より政府において総合的な対策が講じられてきましたが、労働安全衛生法等の改正に基づくアスベスト分析調査の強化（平成 18 年 9 月）等により、今後、より多くの建築物等において更なる対策を一層進めること求められるものと予想されます。
- 2) このようにアスベストに関する安全対策は緊急性の高い課題であることから、今回の見直しにより、従来からの「住宅の室内空気環境」の研究開発に、アスベスト等の有害物質に関する研究開発も加えて、研究開発を行うことにしました。